

保存修復学

[講義] 第1学年 後期 必修 1単位

《担当者名》 歯学部教授 / 齋藤 隆史 歯学部教授 / 伊藤 修一 歯学部講師 / 泉川 昌宣
歯学部准教授 / 松田 康裕 歯学部助教 / 油井 知雄

【概要】

歯の硬組織疾患の種類とその病態の把握、検査法、診断と処置方針の決定、歯の切削法、窩洞形成法、および修復に必要な前準備等の総括的事項の習得と、コンポジットレジン修復、グラスアイオノマーセメント修復、インレー修復、ベニア修復等の理論及び臨床術式について学ぶ。

【学修目標】

保存修復学の意味と概要を理解し、各種修復法の理工学的性質と修復法を習得する。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|--------------|--------------------------------|--|-------|
| 1) 2 | 硬組織疾患及び発育異常の種類とその処置法 | 歯の硬組織疾患の種類、病態とその診断についての知識を得る。また、特にう蝕症についてはその分類、検査法、処置法について習得する。 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 P.1 - P.20 | 齋藤 隆史 |
| 3 1 | 保存修復の処置方法について - | 保存修復処置の方法（硬組織切削法、窩洞形態、形成法、修復の補助法）と処置ステップの流れ、器材、薬剤等の用法について学ぶ。また保存修復処置における衛生士の診療補助、介補等の業務、役割について習得する。 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 P.21 - P.37 | 齋藤 隆史 |
| 4 2 | 保存修復の処置方法について - アマルガム修復 | 保存修復処置の方法（硬組織切削法、窩洞形態、形成法、修復の補助法）と処置ステップの流れ、器材、薬剤等の用法について学ぶ。また保存修復処置における衛生士の診療補助、介補等の業務、役割について習得する。 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 P.21 - P.37 | 齋藤 隆史 |
| 5) 6 | コンポジットレジン修復 I | コンポジットレジン修復に用いる材料及び器材の特徴とその用法について習得する。特に現在最も多く用いられている可視光線重合型接着性コンポジットレジンを中心に解説する。 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 P.38 - P.48 | 伊藤 修一 |
| 7) 8 | コンポジットレジン修復 | コンポジットレジン修復の適応症、臨床における修復手順、応用例について習得する。 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 P.48 - P.52 | 泉川 昌宣 |
| 9) 10 | セメント修復 | 各種セメントの特性とその用法について習得する。 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 P.52 - P.60 | 松田 康裕 |
| 11 | 鋳造修復 I | 鋳造修復のあらまし、特徴と適応症について習得する。 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 P.61 - P.65 | 伊藤 修一 |
| 12 | 鋳造修復 | 鋳造修復の手順を習得する。 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 P.65 - P.68 | 伊藤 修一 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|---------------------------|---|-------|
| 13 | 合着・接着 | 合着・接着用セメントの成分と合着・接着の手順を習得する。 「保存修復・歯内療法」P.77 - P.82 | 伊藤 修一 |
| 14 | ポーセレンインレー修復・レジ ンインレー修復 | ポーセレンインレー修復とレジニンレー修復の特徴、適応症と手順を習得する。 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 P.68 - P.72 | 油井 知雄 |
| 15 | ラミネートベニア修復 | ラミネートベニア修復に用いられる材料、特徴、適 応症と修復の手順を習得する。 「保存修復・歯内療法」P.73 - P.76 | 油井 知雄 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 100%

【教科書】

「最新歯科衛生士教本（歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法）」 医歯薬出版

【学修の準備】

予習：指定した教科書の項目を読んでおくこと。（30分）

復習：講義ノート・配布資料をまとめ、講義内容を理解しておくこと。（30分）

【実務経験】

斎藤 隆史（歯科医師）伊藤 修一（歯科医師）泉川 昌宣（歯科医師）松田 康裕（歯科医師）油井 知雄（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

学理にのっとった教育内容と実務経験を活かすことで、教育成果が期待できる内容となっている。